

川東の里だより

2009.1 No.88

発行者

福島正訓

発行所

社会福祉法人 川東の里
北見市川東226番地2/TEL(0157)24-3030

- ・川東学園・きたみ学園
- ・きたみ学園成人部
- ・友楽里・風楽里
- ・フレンズ・豆ちゃん
- ・高栄事業所・緋牛内事業所

印刷所

(有)サンケイプリント社



謹んで
新年のご挨拶を

申し上げます。

社会福祉法人 川東の里

理事長

古川義

外役員一同

施設常務理事
福島正訓

川東の里
総務課長

きたみ学園

支援課長

川東学園

支援課長

通所施設

支援課長

きたみ事業所

支援課長

高栄事業所

支援課長

緋牛内事業所

支援課長

きたみ学園父母会

支援課長

川東学園父母会

会長

竹ヶ原 橋詰

会長

川東の里施設整備をする会

会長

洋子会

我妻

会長

浅雄

会長

彦治郎

会長

嗣巳

会長

彦治郎

会長

一雄

会長

彦治郎

会長



新年を迎えて

社会福祉法人川東の里

理事長 古川義一



社会福祉法人川東の里
施設長 福島正訓

想いをひとつに

複合相談 「ほつと・ぶらざ」発

オホーツク障害者就業生活支援
センター長 小山穂積

北見駅前「まちきた大通ビル」
センター長 小山 穂積

二〇〇八年は文字どおり大変な年がありました。

リーマン・ブラー・ザーズに端を発して、ビック・スリードの経営破綻等、アメリカ発金融経済の大恐慌が世界中を席巻いたしました。当然の事ながら、我が国の経済もその余波は避けられず、トヨタ、ソニー等の代表企業が生産の縮小、それに伴うリストラを即時実行して、新しい年は暗い幕開けになりました。

「川東の里」は法人発足以来三年目の終わりに近づき、障害者自立支援法に基づいての運営も、お陰様で何とか順調に推移して参りましたことは、関係者一同のご尽力の賜とご同慶の至りに存じます。ご承知の通り二十一年は障害者自立支援法施行後の実績に基づいて、中間見直

しの年に当たります。利用者の負担のありかた、就労の確保、労働報酬の向上、今後の問題は山積みされていると思考しておりますが、わが施設では当面近いうちに利用者の障害程度区分認定の確定を実施しなければなりません。また既存の就労施設、作業所等の実績を分析して今後の見通しを樹立しなければならない大切な一年になろうかと考えております。役職員の皆様には健康に留意されて、利用者と心の通った共生を求めて、鋭意研鑽努力されますよう念願いたします。

新年あけましておめでとうございます。今年も皆様のご指導をよろしくお願い申上げます。さて、これまで川東の里では・人間の尊厳を大事にする・健全育成援助護の実現・社会的自立生活の促進・自然と調和した勤労の重視・理念とし、「人として・育みくらし・はたらく」の四つを掲げております。この川東の里基本理念を達成すべく、目標の明確化と福祉サービスの向上に職務理念を達成すべく、目標の明確化と・職員の使命感、また達成としていきく努力や一丸となつた方向性が必要です。目の前にそびえ立つて登っているこの木ですが、少しづつ登っているこの木ですが、いぐら登つても目標や方向性が違えば登頂の意味はありません。職員が想いをひとつにし、「人として」の人権を第一に捉え、利用者の笑顔輝く障がい施設としての拠点として「里」づくりを目指し、今後も尚一層の効果的・効率的な運営に努めて参ります。『井戸を掘つたら水が出るまで掘る』井戸は水が出なければ意味がないのですから。

「井戸を掘つたら水が出るまで掘る」井戸は水が出なければ意味がないのですから。

障がいのある人たちの生活、日中活動、就労に係る様々な課題を抱えている方々が、本人本位に普通に生活できることへのお手伝い、様々な活動への壁に突き当たった方への相談窓口として、各支援センターが同じフロアになつたことは情報の共



有化、迅速対応で広域支援の体制が出来たのではないかと思います。障害者自立支援法施行で、三障害対応となつたことで、スタッフとしては障害特性の共通認識を持つことが必須となり、日々研鑽を余儀なくされている昨今にあります。

センターを利用する方の要望

課題の全てが当複合相談「ほっと・ぶらざ」で完結するものではなく、各関係機関の横の繋がり「地域ネットワーク」において本人さんの課題が一つ一つ解決されていくことに繋がることとスタッフ一同共通認識で取り組んでおります。

当センターは就労支援担当者二名、生活支援担当者一名の配置で網走管内を支援区域としています。就労及び生活全般にわたる支援について、当センターの担当者で支援できる範囲は限られ、網走管内各地域の関係機関との連携が欠かせないものとなっています。

また、当センターには障がい者が円滑に就労できるように職場内外の支援環境を整えることとして、障害者移行支援事業所に配置されているジョブコーチ（職場適応援助者）との協力、連携を持って支援に当たっております。管内ハローワークは北見、網走、紋別にそれぞれあります、職業相談、紹介が行われていますが、当センターは独自の職場

「あおぞら」は四月に開設以来六ヶ月が経過、障がいのある方が一般就労を求められるときの就労あつせん及び就労されている人の生活全般について支援を行っています。

当センターは就労支援担当者

実習あつせんの他、ハローワークとの連携を基に高等養護学校、市町村役場、企業、地域包括支援センター、福祉施設事業所、障がい者相談支援センター等との横の繋がり（ネットワーク）を構築すべく活動しているところです。

「障がい」の冠はあつても一

般社会人として、企業が理解と受け入を考えて雇用を進めて貰えるようになるのか、求職者の特性が就職の是非を左右することもありますが、総じて障がいのある方が企業の一員として働くことにより、従業員への啓発に繋がる人的資源としても、企業に有用なることを理解していただくことができれば、より就労への期待は大きくなるものと思います。



「就労へのサポート」

複合相談 ほっと・ぶらざ

まちきた大通りビル(パラボ)5階
北見市大通り西2丁目1番地
開所時間／9:00～17:00(月～金)
10:30～14:00(土曜日)
(営業日以外も電話で対応させて頂きます)

北見市障がい者相談支援センター「ほっと」

(0157)69-3003

網走圏域障がい者総合相談支援センター「くらしネットオホーツク」 (0157)23-2518

オホーツク障がい者就業・生活支援センター「あおぞら」

(0157)69-0088

学園に入つて



きたみ学園
支援員 佐伯 愛里

私が四月からきたみ学園で働くようになり早いもので、半年が過ぎようとしています。この半年間はとても速く無我夢中に働いてきたように感じます。その中で気付けば、利用者の方々から学んだこと、改めて教わったことが多くいつもパワーをもらっています。

四月に働き始めた頃は、自分に精一杯で相手のことばかりを知ろうとし、自分の事を知つて貰おうとする余裕もなかつたようになります。働くにつれ利用者の中でも徐々に理解していく中で自分の中でも知つてほしいと思うようになり、最近はだんだんと利用者との信頼関係が築けてきている事を実感し、嬉しく感じています。毎日がとても楽しくこの職に就いて本当に良かったと思つています。

これから支援していく上で、一人ひとりの将来を想像し少しずつでもそこに近づけていける支援を心掛けていきたいと思い

ます。そして、一人ひとりの個性を受け入れ、それぞれに合つた伝え方でコミュニケーションを密にし、お互いが向上していくことが出来ればよいと考えています。また、働いていて感じたのがどの利用者も皆が年間の行事をとても楽しみにしていることです。

何かを提供した際に全員が一致して楽しむことが出来る環境作りの大切さを学び、これから行われる行事もまだまだたくさんあります。利用者一人ひとりが楽しんで参加する事が出来る様努め、利用者と一緒に全力で楽しんでいきたいと思っています。

今後、いつまでもこの初心の気持ちを忘れず新しい気持ちで利用者が毎日楽しく安全に生活していけるよう精一杯頑張っていきたいと思います。今後ともよろしくお願ひ致します。



きたみ学園
支援員 石田 哲也

これまでの半年について

散歩以外の活動では、今まで買い物やドライブ、ボウリングといった行事をあすなろ班の皆さんと共に体験させてもらいました。普段の利用者さんとは違う新たな一面を知る事ができ、驚く事も多いのですが、皆さんのがとても嬉しく思います。今後も沢山の行事を通し、皆さんとの楽しそうな笑顔を見られる事と思います。

もう一つ、私が担当する「かき棟」では九名の利用者さんの洗面や食事など、日常生活の基本的な部分の支援を毎日行っています。かき棟の皆さん、散

歩や作業と言つた日中活動をすなろ班」と「かき棟」を担当させて頂いています。

「あすなろ班」では、毎日散歩を中心とした活動を行っています。利用者の方々の状況や体調、その日の天候などを考慮して散歩コースを決めています。

利用者の皆さんが安心して健常的な生活が営めるよう、安全面での配慮を心掛けていきたいです。また、これから寒い季節を迎えますので体調を崩さないよう配慮が今まで以上に必要になると思います。

皆さん一人一人の性格や個性が少しずつですが理解できてきたように思います。これからも色々な活動を利用者の皆さんと共に体験する事で、多くを学び取れたらと思います。また、利用者の皆さんにも自分のことを知つてもらい、お互いにより良い信頼関係が築けるように日々のコミュニケーションをしっかりと取りたいと思います。

私はまだまだ経験が浅く、学生時代に学んだ事と実際の現場で必要とされることとの違いに戸惑う場面もありますが、今後も様々な体験を積み成長していきたいです。また、それと同時

つかり行うための大切な場所と言えますので、清潔で明るく過ごしやすい空間を作れるように努力したいと思います。

働き始めたばかりの頃は、個性的な利用者の皆さんに圧倒されるとばかりで何もできず、皆さんを不安な気持ちにさせてしまふ事も多く、先輩の職員の方々に助けて頂いてばかりだったよう思います。しかし、運動会や旅行など様々な行事を利用者の皆さんと体験する事により、皆さん一人一人の性格や個性が少しずつですが理解できてきたように思います。これからも色々な活動を利用者の皆さんと共に体験する事で、多くを学び取れたらと思います。また、利用者の皆さんにも自分のことを知つてもらい、お互いにより良い信頼関係が築けるように日々のコミュニケーションをしつかりと取りたいと思います。

にいつまでも初心を忘れず、利用者の皆さん的生活を支えられる人間になりたいと思います。

日々の支援を通して感じた事



川東学園
支援員 定本 龍磨

私が「川東学園」の職員として勤務して、半年が経ちました。この半年はまるで、暗闇の中を手探りで一歩ずつ進んでいるような毎日だったと思います。そのような毎日の中で、最初は顔と名前を覚えるのに精一杯で、利用者皆さん一人一人の個性や行動を理解した支援ができず、利用者の皆さんには、とても窮屈な思いをさせていたと思います。

日頃の支援を通してコミュニケーションをとつていく中でその一つ一つの行動に意味があり、いろいろな感情が詰まっている事を学び、少しづつではありますが、利用者一人一人にあつた支援というのが半年前にくらべ出来るようになってきた感じが致します。日頃の支援において、コミュニケーションをとつてい

く上での私が一番大切にしたいと思つてゐることがあります。それは、愛情をもつて一人一人の利用者に接していき、絆を深めていくという事です。

そのように感じたのは、利用者の皆さんの家族の方が迎えに来ると今まで無表情だった人も瞬で明るい表情になり普段の生活では見ることの出来ない、素晴らしい笑顔に変わり、家族の愛がとても大きく深いものだということを痛感し、私もその愛情に少しでも近づけるよう日々、利用者の皆さんに接していき、回りの先輩職員や利用者の皆さんから、沢山の事を学び、日々努力し、利用者の皆さんから愛され頑張つていきたいと思います。

当初は、「じねん? 知らないよ……」「行つてみたいけど、遠い: 場所がわからない」などと一般の方からの声がありましたが、一度来ていただいたお客様からは、「利用者さんの明るい笑顔に元気がもらえたよ! 又笑顔に元気がもらえたよ! 又きますね」と言つて頂きましたが、客足はなかなか伸びず寂しい店内でございました。

この夏前は、お恥ずかしい話、土日に数人という日があり、利用者さんと「これではいけない! 今の現状をしつかりと受け止め、今私たちが出来ることは何だろう? 出來ることからやつていいこう」と話し合い、まずはポスター張り、チラシ配布、メディアを通じてのコマーシャル、イベント等展開して来ました。おかげさまで、最近では平日十五人から三十人ほど、土日になると六十人以上と、かつて無い忙しさ、毎日うれしい悲鳴を上げております。ホール係りの利用者さんも、お客様が一度に大勢いらっしゃつても落ち着いて対応

自立へ向けて、レストラン業務の中で力を合わせて働いています。

利用者さん、本当に、愚痴も言わぬ一生懸命です。「お客様ががるんだもんね!」「お客様が喜んで帰つてくれたら、いいね!」などとやる気満々! 職員も負けはいられません。今のチャンスを逃さないようにお客様に又じねんの皆さんに会つて、おいしいご飯を食べたい、又行つてみようと思つていただけるよう、利用者さんと共に考え努力していきます。



「生産フェアを終えて」

きたみ学園

支援員 片川 貴浩

去る九月二十八日に恒例となつております「川東の里 生産フェア」を紺牛内事業所で行わせて頂きました。紺牛内事業所での開催は今回で三回目という事で、近隣の方々にはご迷惑をお掛けしましたが、寒さが厳しく、「もしや雨か」と天候を不安に思つて頂きました。前日の準備段階では、強風と沢山のお客さまに来て頂き、大変感謝しております。当日の朝には強風も收まり、絶好の秋晴れでの開催となりました。

紺牛内事業所では、各班がこの日の為に充分に準備してきましたが、椎茸や卵など早々に売り切れてしまい、川東の里の生産物の信念である「安心」「安全」「おいしい」を理解してくれている方が大勢居ることを改めて知ることができました。今回新たに「レストラン自然」からイスをテントで販売しましたが、大変好評だったようで、用意した量は完売となりました。自然イベントでは、是非「レストラン」で食べてみて下さい。毎年出演して

生産物販売では、大人の部と子供の部、共に皆さん真剣で、最近では鋸を使つて木を切る機会が無いので、コツを掴むのが大変そうに見えました。特に子供の方は、お父さん達からのアドバイスに顔を赤くしながら必死に切つていた印象が残っています。今回、もう一つ新しい試みとして「レストラン自然」を作つて、ソバを使つて、わんこそば大会を行つてみました。最初、なかなか参加者が集らず、理事長や職員、利用者にも参加してもらい、予想外の驚く結果となっていました。お母さんと一緒に遊びに来てくれた川東学園の利用者の方々を来たいと思っております。また利

く迫力のある音を聴かせてくれました。突然の雨があり、繰り上げての準備でしたが、素晴らしい演奏をして頂きました。今回、初めて出演して頂いたバトンチームのM.B.A.L.P.の皆さんは、足場の悪い場所でしゃべっている中、彼は平然とそばまで飲み切つて優勝に輝きました。トントン拍子で、泽山のギヤラリーが取り囲んでいました。生産フェアの人気イベントの豚レースは、当初二回行う予定でしたが、子豚の機嫌が悪く?かなり予想が難しかったので、三回目のレースを出走しました。大きな歓声や悲鳴、笑い声など、楽しく盛り上がることができました。

“もつともつと
楽しい行事を！”

川東学園父母会通所部

部会長 坂田 考能

ことになりました。ルールでは五十杯を食べ切るか、十分間では何杯食べるかを競うのですが、五十杯を完食したのは彼一人だけでした。皆さん苦しそうに食べていて、彼は平然とそばまで飲み切つて優勝に輝きました。最後に、忙しい中、お手伝い頂いた工大生、父母の皆様ありがとうございました。今回の生産フェアも、御協力のおかげで

無事に終了することができました。紙面を借りてお礼を申し上げます。この様なイベントを通して、地域の方に川東の里の活動や利用者のことを理解していただきたいです。今回、初めて実行委員長でしたが、結びつきが生まれると幸いです。職員の皆様、大変お疲れさまでした。

ステージで行われた丸太切り大会では、大人の部と子供の部、共に皆さん真剣で、最近では鋸を使つて木を切る機会が無いので、コツを掴むのが大変そうになりました。また初雪の便りが各地で聞かれるようになり冬は朝夕の冷えこみが大変厳しくなりました。また初雪の便りが各地で聞かれるようになり冬はもう目の前といつた感じです。

さて、通所部会として保護者と職員の親睦を目的とした「パーゴルフ大会」を平成二十年八月に新たな活動として実施させていただきました。

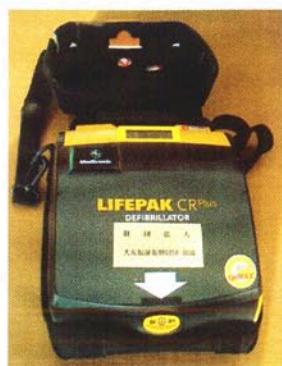
用者の皆さんにも喜んで楽しんでもらえるようなイベントを実施したいと思案中です。利用者が豊かに生きるための父母会の役割として、従来の施設・事業所への支援、ボランティア活動のほか、行政への要請、他の父母会等の団体との連携など新たな取り組みも必要となつていますが、通所部会としては、このような取り組みのほか、私個人として「遊びから生まれる連携」の考え方から“もつともつと楽しい行事を”に向けひとつでも多く実施できるよう努めて参りましたが、ご協力をお願いし寒さ厳しい折、健康に留意されますよう願っています。

今後も一人でも多くの方が参加でき、もつともつと楽しんでもらえるよう企画立案し実施したいと思つております。また利



AEDを増設しました

札幌の(財)大友福祉振興財団様(理事長大友正吾氏)より2度目の助成を受け、友楽里、フレンズ、豆ちゃんに各1台ずつAED(自動体外式除作動器)を設置しました。前回の3台に続き、全事業所に計6台のAEDが設置できたことは大変心強く、今後万が一の時には役立てていきたいと思っております。ありがとうございました。



皆様からのたくさんのご厚情
ありがとうございました。

寄付金

川東の里施設整備をする会

会長 竹ヶ原洋子 様

やさしいところ やさん 様

北見信用金庫南大通支店

支店長 宮野 孝司 様

ジブラルタ生命保険株式会社

会長 佐藤 勝也 様

寄贈品

サンマルコ食品株津別工場

北見ことぶき大学学生自治会

北見トヨペツト株

代表取締役 國安 幹夫 様

北見友の会 代表 服部 明子 様

北海道洞爺湖サミット道民会議

国際ソロプチミスト北見みんと

会長 佐々木静子 様

東海林 誠 様

市川 慧 様

中村屋(有) 毅 様

江村 隆司 様

栗田 幸吉 様

村上 権 様

花の店タマキ(株)

川東学園
篠永幸治 様
訃報

(平成二十年九月二十九日
享年五十六歳)
ご冥福をお祈り致します

自転車点検・カラオケ慰問
北交ハイヤークラブ愛好会
会長 水戸 雅弘 様

花壇整備慰問

国際ソロプチミスト北見みんと

会長 後藤田 優子 様

鴻慈分教会 長尾 正人 様

清掃奉仕

鴻慈分教会 長尾 正人 様

洋食料理慰問

全日本司厨士協会北見支部

支部長 梶井 敏幸 様

コンサート招待

自衛隊美幌駐屯地援護センター

神奈川大学吹奏楽部

吹奏楽公演招待

北見公演実行委員会

北見芸術文化ホール

管理者 中川 雄二 様

ウルトラマンステージ招待

北見芸術文化ホール

管理者 中川 雄二 様

フレンズ

～お世話になったあの方へ
手作りの心を送る～



通所授産施設 フレンズ

北海道北見市川東226番地2
TEL 0157-22-6395・FAX 0157-22-6405



■営業時間／AM10:00～PM6:00
〒090-0016 北見市大町71番地
TEL (0157) 24-0102
FAX (0157) 26-1102
E-mail: mamechan@almond.ocn.ne.jp

新年あけましておめでとうございます。
初夢に「一富士、二鷹、三なすび」と申しますが、皆様は、穏やかな輝かしい新年をお迎えのことと存じます。

さて、本格的な冬将軍到来の季節となりましたが、今年のインフルエンザは世界的に流行の危険性も報じられていて、ほどの猛威を振るいそうですね。これを防ぐには、つき並みですが、「うがいや手洗い」「マスク」が有効だそうです。どうぞ、お気を付け下さい。さて、本年も私達職員は「福祉理念達成」へ向け、邁進する所でございますが、利用者の皆様及び御家族の皆様には、御意見、相談ごと等がございましたら、是非お聞かせ下さい。本年も何卒、宜しくお願ひ致します。



(川窪・橋爪・須藤)

